

外 国 語

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

- ア 外国語科については、下記の課題を踏まえ、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、中学校・高等学校を通じて、4技能を総合的に育成する指導を充実するよう改善を図る。
- イ 教材の題材や内容については、外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しうる内容の充実を図る等の観点を踏まえ、4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善を図る。
- ウ 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通じて、これら4技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。
- エ 中学校における学習の基礎の上に、聞いたことや読んだことを踏まえた上で、コミュニケーションの中で自らの考えなどについて内容的にまとまりのある発信ができるようにすることを目指し、「聞くこと」や「読むこと」と、「話すこと」や「書くこと」とを結び付け、四つの領域の言語活動の統合を図る。
- オ 高等学校において、中学校における学習が十分でない生徒に対応するため、身近な場面や題材に関する内容を扱い、中学校で学習した事柄の定着を図り、高等学校における学習に円滑に移行させるために必要な改善を図る。

【外国語科の課題】

- 社会や経済のグローバル化の急速な進展に伴い、単に受信した外国語を理解することにとどまらず、コミュニケーションの中で自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」の育成がより重要となっている。
- 中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない状況なども見られる。
- 英語が大切、普段の生活や社会に出て役立つと考えている生徒は、他の教科に比べて多いのに対して、学年が進むにつれて英語が好きな生徒は減少する傾向が見られる。
- 「英語Ⅰ」において、文法・訳読が中心となっている、また、「オーラル・コミュニケーションⅠ」において「聞くこと」「話すこと」を中心とした指導が十分になされていない実態があるなど、4技能の指導において偏りがあるとの指摘がある。

(2) 改善の具体的事項

学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める国語・数学・外国語については、義務教育の成果を踏まえ、共通必修科目を置く必要があること、入学段階から生徒の実態が多様化しているため、それぞれの高等学校の生徒の資質や能力に応じ、指導事項の重点化や単位数の増減が可能であることをより明確化することが必要であることが提言されている。

四つの領域の言語活動の統合を図るとともに、発信力の向上や、中学校との円滑な接続を図る観点から、科目の構成及び内容等を、次のように改善する。

	現 行 学 習 指 導 要 領			改 訂 学 習 指 導 要 領 (予 定)		
	科 目	標準単位数	必修科目	科 目	標準単位数	必修科目
外 国 語	オーラル・コミュニケーションⅠ	2	○	コミュニケーション英語基礎	2	○ 2 単位ま で減可
	オーラル・コミュニケーションⅡ	4		コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	英語Ⅰ	3	コミュニケーション英語Ⅱ	4		
	英語Ⅱ	4	コミュニケーション英語Ⅲ	4		
	リーディング	4	英語会話	2		
	ライティング	4	英語表現Ⅰ	2		
				英語表現Ⅱ	4	

ア 「コミュニケーション英語基礎」は、身近な場面や題材に関する内容を扱い、日常的な事柄についてコミュニケーションを図る活動等を行うことを通して4技能を総合的に育成することにより、高等学校での学習に円滑に移行させることをねらいとして内容を構成する。

イ 「コミュニケーション英語Ⅰ」は、4技能を総合的に育成することをねらいとして内容を構成し、統合的な活動が行われるようにするとともに、そうした活動に適した題材や内容を扱うこととする。その際、例えば、他教科で学習する内容、自国や郷土の風俗・習慣、歴史、その他の様々な伝統や文化に関する内容、発明や発見などの科学技術や自然に関する内容、異文化コミュニケーションに関する内容等、コミュニケーションへの関心・意欲・態度の育成にも資する題材や内容を選択的に取り上げ、体系立てて扱うものとする。

ウ 「コミュニケーション英語Ⅱ」は、「コミュニケーション英語Ⅰ」の基礎の上に、総合的な英語力の向上を図る指導を行うことをねらいとして内容を構成する。

エ 「コミュニケーション英語Ⅲ」は、「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」の基礎の上に、総合的な英語力の向上を図る指導を行うことをねらいとして内容を構成する。

オ 「英語会話」は、身近な場面や題材に関する内容を扱い、音声を中心にコミュニケーションを図る活動等を行うことを通して、必要な情報や考えを聞いたり、話したりすることができる力の向上を図るような指導を行うことをねらいとして内容を構成する。

カ 「英語表現Ⅰ」は、基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことができるようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うこと

をねらいとして内容を構成する。

キ 「英語表現Ⅱ」は、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなど高度なコミュニケーションを行うことができるようにすることや複雑な文構造を用いて正確に内容的なまとまりのある多様な文章が書けるようにすること、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとして内容を構成する。

ク 言語活動、言語材料、教材、指導上の工夫及び配慮事項については、各科目のねらいに配慮しつつ、改善を図る。また、ICTなどを指導上有効に活用することに配慮する。

ケ コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、それぞれの科目において扱う題材や内容、言語材料の難易度によって分類したものであることから、「コミュニケーション英語Ⅱ」は、「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に、「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に、履修させるようにする。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 学力等実態調査の結果について

北海道高等学校「平成19年度学力等実態調査」(英語Ⅰ)集計結果より

● 学習状況調査

設問1(3) 英語を勉強すれば、私のふだんの生活や社会生活の中で役立つ。

回答状況	そう思う		どちらかといえばそう思う		どちらかといえばそう思わない		そう思わない		分からない	
	全道 (%)	()	全道 (%)	()	全道 (%)	()	全道 (%)	()	全道 (%)	()
全道 (%)	42.3	(34.9)	31.7	(31.9)	11.8	(14.1)	9.7	(11.2)	4.2	(7.5)
全国(H17) (%)	32.6		32.3		15.0		14.1		5.8	

()は前年度の数値を示す。

● ペーパーテスト (A問題)

問題番号		学習指導要領の内容		出題のねらい	設定 通過率 (%)	調査結果	
大問	小問	大項目	小項目			全道 通過率 (%)	無回答率 (%)
8	(1)	書くこと	2-(1)-エ	内容を考えて英語で書く	45	15.3	43.3

【問題例】

オーストラリアに住んでいる友人から、「半年後、日本に旅行に行きたいが、どのような場所を訪れたらよいか、アドバイスしてほしい」と手紙を受け取りました。あなたならどのような場所を一番すすめますか。その理由も含めて、英語で4文以上のまとまりのある文章を書きなさい。ただし、最初の文は You should visit ... に続けて書き始めなさい。

【分析】

設問1(3)「英語を勉強すれば私のふだんの生活や社会生活の中で役立つ。」に対する肯定的な回答は70%を超えており、英語を学習する価値や意義は概ね認識しているが、家庭学習に取り組む意識が低いことから、学習の目的や内容、方法を明

らかにするなどして、学習意欲の向上や学習習慣の定着を図る必要がある。また、ペーパーテスト（A問題）8(1)の問題において見られるように、まとまりのある英文や指定された状況や文脈に応じて英文を書く力は十分ではなく、無回答率が高い。

このように、中央教育審議会答申の「外国語科の課題」の中にある「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない」との指摘が、本道の高校生にも当てはまると思われる。

(2) 授業改善事例

本道においては、以上のような「改善の具体的事項」を踏まえた形での授業改善がすでに行われてきており、その一例を次に示す。

○ Englishプロジェクト推進校、推進協力校での取組

平成18年度より行われている「Englishプロジェクト」は、「北海道学力向上推進事業（高等学校学力アッププロジェクト）」の一環として、英語によるコミュニケーション能力を飛躍的に向上させるための教育プログラムの開発など、先進的な英語教育指導内容・指導方法に係る実践研究を行うことを目的に、推進校2校及び推進協力校10校により行われている。

次の実践例は、平成19年度に行われた「『訳読』を中心としない授業実践を通して実践的コミュニケーション能力の育成を図る」授業の実践例である。（詳細については、北海道高等学校長協会英語部会Webページ"<http://www.eigobukai.hokkaido-c.ed.jp>"を参照。）

Home Reading & Retellの実践

北海道〇〇高等学校 〇〇 〇〇

- はじめに**
Home Reading & Retell は、ある本を家で読み、template に基づいてその内容を要約し、その内容を知らない人に、本の内容だけではなく自分の考えや感想を伝えるという活動である。本校では SELFLIB 指定を機軸として、カナダ・アルバータ州立大学のオンライン・ビランツシ教授の指導を受けて始めた。平成19年度本校国際文化科1年生での実践的を紹介する。
- 使用するもの**
本、レベリングTemplate、レベリングChecklist
- 時期と頻度**
授業中の授業で年にも数回、英語セミナーで1冊の約4冊（4回）行う（予定）。
- 発表**
以下は、今年度夏休み明けに行った実践例である。
→ 1回目 templateを見ながらペアに retell（側面質問無し）
→ 2回目 templateを見ながら制限時間内（1分～2分）にペアに retell
→ 3回目 話すときはtemplateを見ないで、ペアに retell
→ 4回目 話すときはテンプレートを見ないで、4人グループで retell
→ 5回目 ALT に retell した後、その本に關する質問に英語で答える（インクビュー形式）
- 今後の展望と課題**
Home Reading & Retell は、いわゆる4技能（読む・書く・話す・聞く）を総合的に鍛えることができる。さらに読解力がつく効果的ないトレーニングである。最初はなかなかうまくいかないが、何度もこなすことで、また、上手な友達の発表を聞くことで、徐々にうまくなっていく。また、ALT のインクビューを通して自分の英語に自信をつけることができる。印刷などでこちらも生徒も大変ではあるが、やはり聞く訓練することが大切である。
課題としては、①読解の細かい間違いをチェックするのが難しいこと、②本の中の写真（絵）をうまく

く使えない生徒もいること、③制限時間内に発表を終えられない生徒もいること、などがある。④は生徒同士の話だとともに楽しくなるので、事前に準備を行ったり、ALT の協力を早い段階で得るなどの対策が必要である。⑤に関しては、取捨選択ができず全ての情報を返さうとするので、retell をする～了分以内に終わらせるために、本場に必要な登場人物や情報だけに絞るようにさせたい。その際、⑥が有効である。写真（絵）は視覚的に物語の理解を助けてくれる。どの写真などの順番でどのように説明するが、自分が聞き手であればどんな説明がわかりやすいか、ということ意識して retell を行うように指導する。

→ Retell と教書で行っている様子。「メモを見るのはOK、でも話すときは相手の目を見て」「写真（絵）をうまく使う」が合い言葉。



6 Template for a Retell (LEVEL 1)

① This book / story is called _____.

② The story is about _____ (how many) characters.

③ _____ (the main character) is _____ (describing word).

④ _____ (another character) as _____ (describing word).

⑤ The story takes place _____ (setting).

⑥ Then _____ (character) _____ (action).

⑦ Finally _____ (character) _____ (action).

⑧ This story made me feel _____ because _____.

⑨ I would (not) recommend that you read it because _____ (これに代って Retell をする).

7 Check List (level 1)

① Did your partner state the title of the book?
② Did your partner state the number of characters in the story? ③ Did your partner identify the main character and another character in the story?
④ Did your partner state setting of the story?
⑤ Did your partner tell how the story began?
⑥ Did your partner state how he/she felt about the story? ⑦ Did your partner recommend that you do or do not read the book? ⑧ Did the illustrations help you understand the story? ⑨ Did your partner read their retell? など（聞き手はこれに代って相手① Retell を評価する）

※ ①～⑧はあくまで理想化したものである。詳細はオンラインビランツシ教授の B-SLIM を参照。

ロールプレイングによるアウトプット活動

北海道〇〇高等学校 〇〇 〇〇

- はじめに**
本校1年次のOCTの授業において、実践的コミュニケーション能力の育成を目指すため、ロールプレイングを利用した授業展開を心掛けるようにしている。ロールプレイングを授業に取り入れることについて、生徒には十分説明した。授業中は、できるだけ英語を発声させ、モチベーションを維持するため、個人ではなくペアやグループでお互いに観念させるような環境づくりにも努めている。
(1) グループワークによる Warm Up
(2) 状況に応じて基本的なフレーズの活用
(3) ペアワークにて基本フレーズを利用した練習
(4) ALT による発音やイントネーションのチェック、生徒とのデモンストラレーション
- ねらい**
学習したことを証明し、テストをして終わりとするのではなく、学んだことを自分自身に取り入れ、練習して発表する。ロールプレイングを取り入れることで、生徒は英語を話しているという実感から、練習中も英語を絶えず話さない、自分たちが作る場面設定での会話のため、各々が困難さを感じながらも克服していった。
お互いはまさに英語を話すことに抵抗を感じさせないようにすることであり、学習したことを『授業』ごとにある。教科担任やALTが発音やイントネーション、リアクションをアドバイスして助けてあげるように生徒にも安心感を与えている。
- 方法**
教科書の単元における場面設定を利用して、その場面できく使われるフレーズ（質問や回答、答文方のアサーション）をアサインしにまとめる。ペアワークで単語を声に出す練習も行う。練習は無難な2行の場面設定1つずつの繰り返しでいくことで、1～2分前後の内容のこと話の人と練習できる。動きもあり生徒は楽しそうに取り組んでいる。ロールプレイングに入るためには、まずは基本的なフレーズを耳に慣らす。次にペアをつくり場面設定（場所、誰と誰の会話か、どのような状況か等）を考え、そこで話される単語を日本語でつくる。この際、学習したことを入れることとして、会話の1文の構成、基本フレーズの繰り返しなどを決める。できなかったものは教科担任が確認する。そして英語に話している状態に入る。この段階では、ALTや教科担任がアドバイスして

いく。会話家の作成では、あまり考え過ぎない空間を確保し、できなかったものを確認し練習し、最終的には教室内でみんなの前で発表し合い、生徒同士で評価活動（評価の観点はその場限りの発表）をしていくため、練習は主に発音やイントネーション、会話のリズムなどに注意を払わせる。発表することにより、よいものにしようとする生徒も出てくる。

→ 生徒の授業で、実際に使用する場面設定『地味な』という状況に定まっていることで、英語力を試そうとする生徒の意欲・興味が高まり、英語練習定時に飽きず人数が大幅に増加している。

Lesson 5 What Delicious Food?

☆ レストランやファーストフード店、レシビや調理法について表現しよう☆

1. 準備

① ペア・グループ（2～3人）を作り、チーム名の決まった日本語で呼ぶ。（1分間）
② 日本語で書いた単語表を互いに渡す。（1分間）
③ 単語表を確認し、準備を完了。（1～2分間）

2. 発表

① ペア・グループで単語表を確認する。
② 発表はほかのグループの前で行うようにする。
③ これまで学習した単語や表現を上手に使う。

3. 場面設定

① チームに決めていく。
② 場所・時間・曜日など。
③ これまでの学習した単語や表現を上手に使う。
④ 誰が誰と話しているか。
⑤ 誰が誰と話しているか。

4. 評価の観点

① チームに決めていくか。
② 場所・時間・曜日などか。
③ これまでの学習した単語や表現を上手に使うか。
④ 誰が誰と話しているか。
⑤ 誰が誰と話しているか。

ゴール



(3) 言語活動

高等学校外国語科における課題を踏まえ、ここでは、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの考えなどと結びつけながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信するような、4技能を総合的に育成するための具体的な言語活動を紹介します。

ア 科目名 英語 I 単元名 Lesson 10 Country Life vs. City Life

イ 本文の一部

I spent my childhood dreaming of the time when I could leave home and escape to the city. We lived on a farm and we were quite cut off from the outside world, especially in winter. As soon as I left school, I packed my bags and moved to the city.

However, I soon discovered that city life has its problems, too. One is the high cost of living. Everything is so expensive from food to clothes to rent. Another problem is pollution. The air is so bad that I sometimes want to get away to breathe fresh air. The third problem is the difficulty of traveling around by car. Traffic jams are terrible and I can never find a parking space.

4技能の総合的な活動

教科書本文の内容理解が終わった段階で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する活動である。

[対応する学習指導要領の項目]

英語 I 2内容 (1)言語活動 ア、イ、ウ及びエ 3内容の取扱い (1)及び(2)

学習活動	評価の実際
<p>[1] 生徒 (A) は、本文の英文を参考にして、自分の考えをテンプレートに当てはめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>"I'd like to tell you about () life."</p> <p>Three merits</p> <p>1. () because ()</p> <p>2. () because ()</p> <p>3. () because ()</p> <p>Three demerits</p> <p>1. () because ()</p> <p>2. () because ()</p> <p>3. () because ()</p> </div> <p>"It's up to you to decide what kind of life you want to live, a "country life" or a "city life." But I'd like to recommend you live a "() life."</p> <p style="text-align: center;">Class: _____ Name _____</p>	<p>【表現の能力】 ワークシートをチェックし、テンプレートに沿って、自分の考えを適切な英語を用いて表現していれば○と評価する。</p> <p>※【関心・意欲・態度】を見る場合には、英語を使って自分の考えを書こうとすれば○と評価する。</p>

[2] 生徒 (A) は、テンプレートを基に、トピックに対してまとめた英文を作成する。

自分の考えを、順番に相手に伝えるときの表現の例

First Firstly	⇒	Second Secondly	⇒	Third Thirdly	⇒	Lastly Finally In the end In conclusion
One	⇒	Another	⇒			

テンプレートを参考に、自分の考えをまとめて英語で書いてみよう。

[3] 生徒 (A) は、作成した英文を提出する。(JTEとALTは回収した英文をチェックして次時に返却する。)

[4] 生徒 (A) は、添削を受けた英文を、正しい発音やアクセント、抑揚等に十分留意しながら、ペアを組んだ他の生徒 (B) に伝える。

[5] 生徒 (B) は、聞いた内容をメモする。その後、聞き逃した点や疑問点等を生徒 (A) に英語で尋ね、必要な情報を得る。

メモを取った後、聞き逃したところを相手に尋ねる表現の例

You said that ~ . Is that right?
 I think your first (second) merit (demerit) is ~ . Am I right?
 Could you repeat your first (second) merit (demerit) in your opinion, please?
 What is the reason for your first (second) merit (demerit)?

相手の質問に対する応答表現の例

That's right. / You're right. / Yes, that's it.
 Sure. / Of course. / Why not? It's ~ .

【MEMO】

【知識・理解】

ワークシートをチェックし、論理的に考えを伝える際に使用する表現の例、表現の例を活用した展開方法を理解していれば○と評価する。

※【表現の能力】を見る場合は、良い点・良くない点をまとめた英語を用いて論理的に表現していれば○と評価する。

【表現の能力】

正しい発音やアクセントを用いて必要な情報を相手に伝えていければ○と評価する。

※【関心・意欲・態度】を見る場合には、英語を使って自分の考えを伝えようとしていければ○と評価する。

【理解の能力】

ワークシートをチェックし、相手が伝えた内容の要点を把握することができていれば○と評価する。

※【関心・意欲・態度】を見る場合は、相手の伝える情報を積極的に聞き取るようしていれば○と評価する。

[6] 生徒 (B) は、得た情報を整理し、生徒 (A) の考えを英文でまとめる。

メモを基に、相手の考えを発表する表現の例

Hello, everyone. I'd like to tell you what Mr. / Ms. ○○ thinks about a "() life."
He / She thinks that there are three merits of a "() life."
~
However, there are three demerits of a "() life."
~
If you have any questions, please ask Mr. / Ms. ○○ later.
Thank you very much for listening.

メモを参考に、相手の考えについてまとめ、英語で書いてみよう。

[7] 生徒 (B) は、まとめた英文を基に、生徒 (A) の考えを他の生徒に発表する。

[8] 生徒 (A) は、生徒 (B) による発表が終了した後、他の生徒からの質疑や意見等に応答する。

[9] 生徒 (A) は、他の生徒からの意見等を参考にし、英語で再度まとめ、提出する。(JTEとALTは回収した英文をチェックして次時に返却する。)

[10] [4]～[9]までの活動を、それぞれの生徒の役割を交換して行う。

【表現の能力】

表現の例を基に、必要な情報を適切に表現していれば○と評価する。

※【知識・理解】を

見る場合は、考えを論理的に伝える際に使用する表現の例、表現の例を活用した展開方法を理解していれば○と評価する。

【表現の能力】

伝えたい情報や考えを適切な速さや声の大きさと発表していれば○と評価する。

※【関心・意欲・態度】

を見る場合は、間違えることを恐れず関心のあることについて質問しているか、相手の質問に積極的に答えようとしているかなどを評価する。

【表現の能力】

他の生徒から得た情報等と自分の意見をまとめ、適切な英語を用いて表現していれば○と評価する。

Topic

ディベート ～集めた情報を利用して立論する～

【実践例 函館地区公立・私立高等学校4校によるディベート大会】

地区レベルでの開催としては道内初となるディベート大会が実施されました。生徒への指導のためには、まず指導する教員の研修が大切ということで、函館大学でディベートを指導している外国人教師を講師とする研修会や函館大学のディベートの授業の見学会を実施するなどして研修を積みました。そして、情報の収集と立論、想定問答の作成、練習試合の実施などにより生徒を指導し、大会当日に備えました。

今回の大会では、各チームは3人により構成され、肯定側（Affirmative）と否定側（Negative）は当日、抽選で決めることとしていたため、各校とも肯定側、否定側のいずれになっても大丈夫なように事前の準備を行いました。

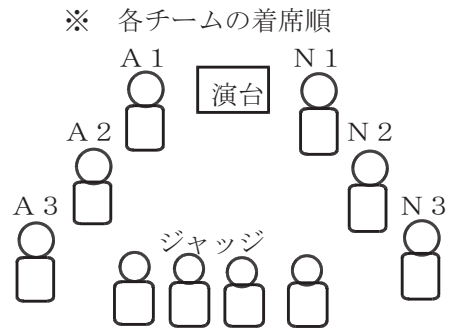
平成20年度 第1回
函館地区高等学校英語ディベート大会

- 日時 平成20年6月28日（土）9：30～
- 会場 市立函館高等学校会議室
- 参加 北海道函館中部高等学校 市立函館高等学校
函館白百合学園高等学校 遺愛女子高等学校
- 主催 北海道高等学校文化連盟道南支部国際交流専門部
函館地区高等学校英語教育研究会

論題(Proposition)
日本は、投票権を得る年齢を18歳に引き下げるべきである。
Japan should lower the voting age to 18.



向かって左に肯定側、右に否定側が着席し、ジャッジが正面に着席している。



Debate Format

流れ	チーム内の役割分担	時間
①肯定側立論	A1	4分
準備時間		1分
②否定側質疑	N2 → A1	3分
③否定側立論	N1	4分
準備時間		1分
④肯定側質疑	A2 → N1	3分
準備期間		1分
⑤否定側アタック	N2	2分
⑥肯定側質疑	A3 → N2	2分
⑦肯定側アタック	A2	2分
⑧否定側質疑	N3 → A2	2分
準備時間		2分
⑨肯定側ディフェンス	A3	2分
⑩否定側ディフェンス	N3	2分
準備時間		2分
⑪肯定側総括	A1	2分
⑫否定側総括	N1	2分

大会当日の様子

ディベートは言語活動を行うに当たって取り上げられる「言語の使用場面の例」として現行学習指導要領に取り上げられていることからわかるように、英語による実践的コミュニケーション能力を向上させたり、インターネットなどの様々な手段を用いて、与えられた論題に関する情報を集めて立論する過程で、思考力、分析力、表現力などの力を総合的に育成することのできる活動であると言えます。

しかし、限られた時間の中で立論や質疑などをすべて英語で行う高度な活動でもあるため、瞬時に英語が出てこない、相手の言うことが理解できないなどの理由で生徒が自信を失い、英語への関心・意欲をなくしてしまわないよう、十分に配慮する必要があります。

まず、通常の授業において読み、聞き、書き、話す活動を通して、英語を使うトレーニングを十分に行うことが必要です。そして、ディベートを導入する際にも、まず日本語で行う、部分ごとに分けて練習する、といった無理のない段階的な手順を踏まえて導入をするなどの配慮が必要となるでしょう。